【商業科・事務情報科】　２年次　【選択】科目「古典Ａ」授業のシラバス

１　概要

教科名	国語科	**科目名**	古典Ａ	**単位数（コマ数）**	２単位（７８コマ）
科目の目標	古典に親しむことを通して、国語を大切にする態度を養い、伝統と物の見方・考え方を広め、人生を豊かにすることを目指す。				
教科書（出版社）	古典Ａ　物語選　改訂版（大修館書店）			**副教材（出版社）**	ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）

２　学習の方法

⑴　予習について

新たな単元に入るときには、あらかじめ文章を読んでおいてください。できれば、文章をノートに写しておくと授業への入り方が円滑になるでしょう。また、２年次に古典に特化して学習することで、１年次の学習に深みを与え、それと同時に内容の面白さ、わかる喜びを体験できるでしょう。詳細については担当者から指示がありますので、聞き漏らしがないようにしてください。

⑵　授業について

少なくとも、教科書・ノートを忘れずに持ってきてください。場合によっては副教材も使用することがありますので、担当者の指示に従って対応してください。基本的に、文章の面白さを味わう・昔の人の生き様を垣間見て感想をまとめることになりますが、まず、古典に興味をもってください。そうすると、古文・漢文の授業が楽しみになってくるでしょう。集中して授業を受けましょう。

⑶　復習について

できれば、授業で勉強したことをその日のうちにノートを見返して、内容を確認しながら理解できたこと・理解できなかったことを明確にし、自分で調べたり友人や先生に聞いて解消してください。また、自主的に国語便覧を見て、その時代の服装や調度品・風習などを調べておくと興味が倍増するでしょう。

〈学習アドバイス〉
●古典を好きになることが学習の早道です。どんなことでも良いので興味を持ちましょう。そして調べても見ましょう。古典に特化して授業を受ける入り口なので、出会いを大切にしましょう。
●絶えず現代と昔を比較し、もし自分がその時代に暮らしていたらどうだっただろうと想像して授業を受けると、面白さの糸口が見えるかもしれません。古典が身近に感じられたらしめたものです。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	絶えず自分と比較し、なぜこの時代の人はこんなことをするのか、自分だったらどうするかと考え、国語を尊重して向上しようとしているか。（授業態度や提出物を評価します。）
②　読む能力	音読して、歴史的仮名遣いや無表記に注意して正確に読み、現代語に置き換えたり自分の意見を持って高みに深めることができたか。（作者の主張を読み取れたかを評価します。）
③　知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字の特殊な読み方などについて理解し、知識を広げることができたか。（正確に現代語訳するときのきまりが身についたかを評価します。）

⑵　評価の方法（以下観点①～③は「⑴　評価の観点」と対応する）

評価材料 / 観　点	割合	定期考査・確認テスト 実力テスト		小テスト	ノート	レポート	課題	グループワーク
①　関心・意欲・態度	２０％			○	◎	◎	◎	○
②　読む能力	３５％	◎	教科書を中心に進めていきます。		○	○	○	○
③　知識・理解	４５％	◎	副教材から範囲を指定して、定期考査に出すこともあります。	◎		○	○	○

〈担当者からのメッセージ〉
●忘れ物はしない、提出物は期限を守って提出してください。ノートのとりかたや課題のやりかたなどは、その都度担当者から指示しますので、聞き漏らしがないように注意してください。
●古典は特有のルールがわかれば正確に現代語訳でき、面白さが体験できます。この段階に行くまでが試練です。必要事項は覚えて使いこなせるようにしましょう。

【商業科・事務情報科】　２年次　【選択】科目「古典Ａ」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	1　説話 昔物語の世界 古文	6	宇治拾遺物語「小野篁広才のこと」 十訓抄「大江山いくのの道」	① ② ③	「小野篁」という人物・「大江山」の歌の成立にどんな謂われがあるか見当をつけることができる。 文章をつっかえずに何度も練習し、正確に読むことができる。 篁の何が「広才」なのか、「大江山」の歌の妙が理解できる。	
5	1　故事・逸話　古人の知恵 漢文	8	呂氏春秋「知音」 歴代名画記「画竜点睛」	① ② ③	「知音」なる故事の逸話、「画竜点睛」の由来がどこにあるか、見当をつけることができる。 文章をつっかえずに何度も練習し、正確に読むことができる。 「知音」「画竜点睛」の意味を踏まえ現代語で単文を作り、正しく使いこなすことができる。	
6	2　随筆　思いつくままに 古文	6	枕草子「すさまじきもの」「中納言参りたまひて」	① ② ③	類聚的商談・日記的商談の区別をつけて深く鑑賞することができる。 文章をつっかえずに何度も練習し、正確に読むことができる。 なぜ「すさまじ」いのか、中納言の主張と作者の皮肉を込めた切り返しが理解できる。	前期中間考査
7	1　故事・逸話　古人の知恵 漢文	8	韓非子「不死之薬」 帰田録「売油翁」	① ② ③	二つの逸話がなぜ故事成語になったのか、要点を指摘できる。 文章をつっかえずに何度も練習し、正確に読むことができる。 それぞれの文章で言いたいことはなにかを、説明することができる。	
8	同上	4	同上			
9	2　随筆　思いつくままに 古文	6	方丈記「行く川の流れ」 「安元の大火」	① ② ③	作者が川の流れから感じたことを、文章を通して理解できる。 感情をこめて、文章をつっかえずに正確によむことができる。 「無常観」（末法思想）がどのような背景で成立したかを理解できる。	前期期末考査
後期 10	2　史記　英雄の物語 漢文	10	史記「鴻門の会」（沛公項王に見ゆ） （樊噲目を瞋らして項王を視る）	① ② ③	「鴻門の会」を行った理由と樊噲がどんな人物か想像できる。 感情をこめて、文章をつっかえずに正確によむことができる。 どういう綾、で沛公と項王のどちらが得をしたか説明できる。	
11	2　随筆　思いつくままに 古文	10	徒然草「名を聞くより」 「丹波に出雲といふ所あり」	① ② ③	名前からどのような人物像が想像できるか、出雲で何があったのかを説明できる。 感情をこめて、文章をつっかえずに正確によむことができる。 作者の結論がどこにあるのか、自分の言葉で説明できる	後期中間考査
12	2　史記　英雄の物語 漢文	6	史記「項王の最期」（四面楚歌す） （我何の面目ありて之に見えん）	① ② ③	項王が、四面楚歌のより、どういう状況にいるか想像できる。 感情をこめて、文章をつっかえずに正確によむことができる。 項王が、最期に何を覚悟してどうなったかを、説明できる。	
1	3　物語　（1）物語の始まり 古文	4	伊勢物語「初冠」 「月やあらぬ」	① ②	平安時代の貴族の生き様を、文章を通して想像することができる。 古文特有の漢字の読み方に留意して正確に読むことができる。	
2	3　漢詩　自然と人生 寛文	6	王維「竹里館」 杜牧「江南春」 李白「送友人」 杜甫「月夜」	③ ① ②	平安時代の習慣や、恋愛事情を正確に理解することができる。 各紙人の文学史的位置を踏まえ、詩人の創作意欲を想像することができる。 押韻に留意しながら、余韻を持たせながら正確によむことができる。	後期期末考査
3	3　物語　（1）物語の始まり 古文	4	竹取物語「かぐや姫の昇天」	③	著名な詩人の作品が残る理由を想像することができる。	

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は読む能力、③は知識・理解を表しています。

※　授業計画は進度により前後することがあります。